

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度も、5領域それぞれの重点項目に対して各2つずつ計10の達成目標を掲げて取り組んだ。重点項目の内容は、令和5年度末の反省と学校運営協議会の委員の意見を参考にして、より現実的・具体的となるよう設定し取り組んだ。

「1週間あたりの家庭学習時間」については、学校全体で平均605分の結果となり、前年度の495分から大きく増加した。特に、3年生は共通テストや一般入試まで挑戦する生徒も多く、進路意識の高まりから学習習慣の向上につながった。しかし、生徒の学習習慣については依然課題が残る状況である。

「保護者同意の進路希望先決定率」については、3年生、2年生ともに100%とどちらも目標に到達できた。進路ガイダンス、3年生の8限補習等を早い時期から実施し、個人面談による学力の把握、保護者との面談等が上手く機能し、生徒の進路意識を向上させることができたものとする。

「学校行事、生徒会行事、学校生活への満足度」については全ての行事で目標とする満足度を達成している。「読書習慣の確立」については、年間10冊以上の本を読む生徒70%以上という目標に対し、42%の結果となり、活字離れが否めない。今後も興味のある本と出会える環境づくりに努めたい。

「教育活動への理解を深める情報発信の強化」では、年間更新回数60回以上は目標値を達成した。行事の様子や部活動の記録などをこまめに投稿するなどしたことは一定の評価を得たものの、SNS発信を提案したりするなど、新しい本校の魅力発信方法の検討が必要であると考えている。

全体を通してみると、多くの項目で重点目標を達成していることを勘案すれば、学校経営全体が健全で本校生徒に即しており、生徒がおおむね前向きな気持ちをもって学校生活を過ごしていると考えている。

7 次年度へ向けての課題と方策

「悩みを相談しやすい学校づくり」については、全員面談の回数は目標を達成できてはいるが、人間関係などで悩みを抱える生徒が多数いる。外部の専門家とも連携し相談体制の充実に努めなければいけない。

学習面では、卒業学年以外の学習時間が伸び悩んでいる。小規模校の強みを生かし、一斉指導だけでなく個別学習指導をより充実させるなど、学習の躓きに早期に対応するとともに、主体的に学習に向かう動機づけをより積極的に行っていきたい。

学校運営協議会の委員からは、読書離れについて、代替としてデジタル書籍の活用、新聞の切り抜きや書き写しなどもよいとの意見をいただいた。活字との触れ合いは重要であり、読書に限らず、さまざまな機会を設け、生徒の読む力、書く力、表現する力を育成したい。

本校は小規模校であり、教員も生徒も変化に対応しやすい。良いアイデアは積極的に学校経営に取り入れ、さらに魅力のある学校となるよう改革を進める。